

事業評価個票（事業実施：令和元年度）

事業名		技術革新による「園芸大国やまがた」加速化事業費			活動指標及び活動実績 (アウトプット)	活動指標		単位	令和元年度	令和2年度	令和3年度	令和4年度	令和5年度	
部局名	農林水産部					研究成果情報の数（令和5年度までに累積9以上）	活動実績		累積件数	0				
担当課名	農業技術環境課						当初見込み	累積件数	—	2	3	6	9	
事業開始年度	令和元年度		事業終了(予定)年度	令和5年度		試験研究データ蓄積数	活動実績	件数/年	8					
短期APの位置付け	テーマ	テーマ4 地域の豊かさを支え、高いブランド力で国内外に展開する農林水産業			当初見込み		件数/年	8	5	11	11	2		
	施策	施策3 「園芸大国やまがた」の実現			成果指標及び成果実績 (アウトカム)	成果指標（所管部局の分析）		単位	令和元年度	令和2年度	令和3年度	令和4年度	令和5年度	
	目標指標	園芸作物による産出額		H32年度：1,300億円		成果実績	億円		—					
事業の目的	「園芸大国やまがた」の実現に向けて、園芸農業研究所の施設整備を契機に、本県園芸技術を牽引する革新的研究に着手し研究開発を加速する。					対象品目の産出額（アルストロメリア、さくらんぼ）	目標値	億円	—	350	351	352	353	
						達成度	%		0%	0%	0%	0%	0%	
事業概要	<p>・園芸農業研究所において、全国第3位の生産量で本県花きの主要品目であるアルストロメリアの高品質・多収生産技術の開発、さくらんぼの長期貯蔵・輸出拡大に向けた技術の開発を行う。</p> <p>・本県の条件に対応したアルストロメリア栽培の複合環境制御の最適化技術の開発、品種適応性調査、開発技術の組み立て実証を行う。 日射量・温湿度・CO2施用・養液・換気等の自動制御技術の開発 耐暑性品種（ピンクパフェ、ピンクラテ等）の適応性の調査</p> <p>・さくらんぼの8月上旬までの長期貯蔵技術を開発する。さらに、新品種「やまがた紅王（山形C12号）」の輸出時の課題と対応策を明らかにする。 日持ち性の検討（貯蔵後の日持ち性含む）、温湿度条件の検討 収穫時期の違いによる貯蔵性の検討、鮮度保持資材使用の検討 輸出時の鮮度保持・荷傷みの検討、輸出先の求評</p>				成果実績									
					目標値									
					達成度	%								
活動指標及び成果指標設定の考え方														
<p>・園芸農業研究所で整備した施設における先進機器やスマート農業技術等を活用することにより、本県の栽培環境に即して収穫量や販売量を拡大できる新たな栽培体系や貯蔵・輸送体系を確立するため、計画的な試験データの蓄積による研究成果の情報を活動指標として設定する。 ・研究成果技術の産地普及と、関連事業における産地支援により生産性の向上が図られ産出額の拡大に結びつくものとして成果目標を設定する。</p>														
事業所管部局による評価・検証（令和元年度）														
						項目	評価	評価に関する説明						
実施方法	<input checked="" type="checkbox"/> 直接実施 <input type="checkbox"/> 委託・請負 <input type="checkbox"/> 補助 <input type="checkbox"/> 負担 <input type="checkbox"/> 交付 <input type="checkbox"/> 貸付 <input type="checkbox"/> その他（ ） 上記実施方法とする理由：園芸試験場での研究課題のため、直接実施				事業の目的が県民や社会のニーズを的確に反映し、成果目標の明確な達成手段として位置づけられ、優先度の高い事業となっているか。また、市町村・民間等に委ねることができない事業なのか。	A	・本事業（試験研究）は、農業者やJA等の農業に携わる方からの要望を受け試験内容を組み立てており、現場ニーズに合った事業である。 ・本事業の各研究課題とも部局横断的な研究評価を受け実施している。 ・試験研究課題の実施は、研究機能を持つ園芸農業研究所以外では実施できない。							
当初予算額 (単位：千円)	費目 (予算見積書グループ名)	令和元年度	令和2年度	令和3年度	令和4年度	令和5年度	事業の効率性	支出先の選定や受益者との負担関係は妥当であるか。						
	ICTを活用したアルストロメリアの環境制御技術の開発	3,364	1,422				A	・研究機器、農業資材、分析試薬等、支出目的に応じて入札などにより支出先は適正に選定している。 ・研究段階の事業であり、結果を踏まえて現場（受益者）への技術普及を図る予定である。						
	さくらんぼの長期貯蔵技術の開発と「山形C12号」の輸出実証	4,206	2,079				A	・試験研究に当たっては、毎年度、試験設計検討を行い、効率的・効果的な実施を図っている。						
							A	・両研究課題とも5か年の研究期間の初年目であり、当初見込んでいた試験データの収集ができた。 ・アルストロメリアでは、ハウスの温湿度やCO2等の環境制御で収量が向上した。（105～155%程度） ・さくらんぼでは、「やまがた紅王」を台湾に輸出実証実施。果実の果梗傷や押し傷の発生がみられたが、台湾のバイヤーや消費者等への求評では、果実の大きさや食味については概ね高評価であった。						
	計	7,570	3,501	—	—	—		成果実績は成果目標に見合ったものとなっているか。 ・産出額については未公表。						
財源内訳 (単位：千円)	国庫支出金						課題・改善点	・両研究課題とも5か年の研究期間の初年目であり、当初見込んでいた試験データの収集ができた。（アルストロメリア3件、さくらんぼ5件） ・次の課題として、アルストロメリアでは毎年安定してどの品種でも収量の向上ができることの確認、さくらんぼでは長期貯蔵後の品質保持や輸出時の荷傷みの対策の検討等、試験を継続してデータを蓄積し、技術確立を目指す。						
	県債													
	その他特定財源	391												
	一般財源	7,179	3,501											
	計	7,570	3,501	—	—	—								

目的

- 平成32年3月竣工予定の園芸試験場整備を契機に、本県の園芸産地の発展につながる新たな研究に着手し、「園芸大国やまがた」実現の加速化を図る。

○新園芸試験場の整備



【研究開発の方向性】

- ・オリジナル品種の開発
- ・超省力・低コスト技術、軽労化技術の開発
- ・高品質・多収生産技術の開発
- ・流通・長期貯蔵技術の開発
- ・環境に優しい省エネ・温暖化対策技術の開発

「園芸大国やまがた」の加速化

事業内容

- 1 次代を切り拓く園芸試験場整備事業費 1,831,312千円
(地方創生拠点整備交付金活用)
 - ① 研究棟・管理棟の整備
 - ・ 実験設備の充実、最新の分析機器の導入により研究機能を強化
 - ② 付属施設・研究用機器の整備
 - ・ 果樹環境制御棟等の新たな試験研究を効率的に実施できる施設や高度な分析に必要な機器を整備
- 2 「園芸大国やまがた」の加速化に向けた主要な研究課題【新規】 7,570千円
 - ① ICTを活用したアルストロメリアの自動環境制御技術の開発
 - ② さくらんぼの長期貯蔵技術の開発と「山形C12号」の輸出実証



アルストロメリアの環境制御



「山形C12号」の輸出実証